

電子複写不可

1483

機関砲才百五大隊戦闘詳報

昭和二〇・三三二〇三三二

防衛研修所戦史部



一一三

斗
平
平

物
家
視
才
石
下
後



軍事雑誌

昭和二十年一月

整理番號第二號

自一月二十一日
至一月二十二日

戰鬪詳報

237115

機關砲隊百五大隊

W. J. #
156341

RS 05012
Cincpac-Cincproa
B- 2 7 7 8
OKINAWA 24 July

進 達 區 分

第三十三軍司令部	進 達 先	整理番號	初 級
第三十三軍司令部	第一號—第二號		二
第三十三軍司令部	第三號		一

機關砲第百五大隊戰鬪詳報目次

- 一 戰鬪前ニ於ケル彼我形勢ノ概要
 - 二 戰鬪ニ影響ヲ及ボシタル氣象
 - 三 彼我兵力及敵ノ團隊號編成裝備素質戰法
 - 四 戰鬪經過ノ概要
 - 五 連絡施設ノ狀況
 - 六 戰鬪後ニ於ケル彼我形勢
 - 七 戰鬪ノ教訓其ノ他參考事項
- 要圖第一—第四機關砲第百五大隊戰鬪經過要圖
 附表第一—第四機關砲第百五大隊戰鬪經過要圖
 同 第一機關砲第百五大隊死傷表
 同 第二機關砲第百五大隊死傷表
 同 第三機關砲第百五大隊兵器損耗表
 同 第四機關砲第百五大隊擊墜機銃元一覽表
 同 第五機關砲第百五大隊戰果一覽表

自一月二十一日
至一月二十二日

戰鬪詳報

機關砲第百五大隊

一 戰鬪前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

我形勢ノ概要

部隊編成

部隊ハ昭和十九年七月二十日西部軍管下機關砲第三大隊
ニ於テ編成ニ着手二十四日完結三十日門司港灣出發ヲ以テ
第三十二軍ノ戰鬪序列ニ入ラシメラル

現地に到着

爾後行動

任務

昭和十九年八月十日那霸上陸八月十二日第二十四師團ノ指揮
下ニ入り沖繩縣中頭郡讀谷村北飛行場ノ防空ヲ命ゼラル
八月二十日沖繩縣中頭郡讀谷山村楚邊ニ到リ北飛行場ノ
西南側並ニ南側ニ陸地ヲ占領シ同飛行場ノ防空ニ任ズ
部隊編成人員ハ機關砲ノ既教育者編成總人員ノ約三割其
他ハ概テ機關砲ノ未教育者ナリモ現地に到着ト同時ニ部
隊全員熱病ノ如ク熱病ヲ以テ教育ノ訓練ハ全空ノ努力

教育訓練

667

ヲ順利シテソノ空襲前六早ヤ各種戦闘ニ支障ナキ程度迄
到達セリ其後教練訓練ノ補備強化ニ努メ十月二十日
昭和十九年度初年兵ヲ迎ヘルヤ各種兵條件ヲ排除シ教育
訓練ニ努メタル結果本隊戰鬥ニ於テ八古年次兵ニ伍シ戰
闘遂行ニ萬遺憾ナキ域ニ達シテアリタリ

大隊ハ任地到着ト同時ニ猛訓練茲ニ峻嚴ナル教育ト併
行シ陣地構築ヲ強行シ先ツ掘開式火砲掩体ヲ初メトシ
後砲側彈藥庫交通壕分散彈藥庫及指彈所等戰
斗必須ノ築城ヲ十月初旬完成シ引キ續キ洞窟式患畜收
容所糧秣庫等ヲモ完成シ本隊斗ニ際シテハ戰鬥百
般ニ遺憾ナキ状態ニアリタリ尚棲息壕ハ資材入手難
ヲ排除シ目下進捗ノ途上ニアリタリ 偽裝ハ部隊草履
偽裝計畫ニ基キ綜合立体的偽裝ニ着手火砲掩体指
彈所以外ハ分散彈藥庫等上部ニ木材土砂ヲ蓄積シ總テ

掩蓋上ニ積土シ之等積土。始メ陣地全般ニ亘リ甘藷
麥萱ギンネム蘇鐵等ヲ移植シ完全偽裝ニ努メ
火砲掩体ハ偽裝網ヲ利用スル等陣地秘匿偽裝ニ
就テハ遺憾ナキヲ期シアリタリ

一月二十日ニハ八八五機八重山列島西北進中ノ情報ニ
接シ命依リ緊急姿勢ヲニ轉移シ警戒ヲ嚴ニスニ一七七
高砲一七〇度一六〇哩ノ地矣。北東進スル敵機動部隊ア
リトノ情報ニ接シ愈々南西諸島攻勢ノ算大ナルヲ予期
シ陣地偽裝補強茲ニ猛訓練ヲ實施スレ。夫ニ至ニ嚴
ナル警戒ヲ續行ス

2. 敵ノ形勢

敵ルソン島上陸ヲ契期トシ比島戰線ハ愈々決戰
態勢ニ突入シ敵機動部隊ハ三群ニ分レ補助艦ヲ
増強シ一月十七日迄至ルモ依然支那海軍東支方面

二 戦斗ニ影響及ボル氣象

ニ遊戈シ支那大陸空軍ヲ「マリヤナ」群島方面別動部隊ト策慮シ、我が比島作戦増援防害ヲ企圖シルモノ如ク、武漢、香港等ヲ頻襲セリ。一月二十日ニ至リB29五機八重山列島ニ侵入シ機動部隊ハ一七〇〇高雄一七〇〇度一六〇哩地矣。北東進スル等愈々台湾、南西諸島攻奪ノ情勢必至ナリシガ二十一日ニ至リ敵機ハ依然台湾ニ南西諸島ノ攻奪ヲ開始セリ

二十一日

朝未雲高度稍低ク曇天ナリシモ九〇〇頃ヨリ漸次晴天ニ向ヒ一〇〇〇頃ハ雲高度高ク強ク陽光ヲ見ル。一三ニ〇頃ヨリ再度曇勝トナリ西北方ニ多量ノ雨雲低迷ス一四〇〇頃天候快方ニ向ヒ太陽光線ヲ見ルモ依然雨雲低空ニ在リタリ依テ東南方ヨリ侵入スル敵機ハ太陽光線ヲ背ニシ西北方ヨリ来襲スル

氣象諸元

敵機ハ雲上ヨリ飛行場上空ニ飛来シ約三〇〇米ノ高度ヨリ急降下降地上空ニ殺到セルヲ目標ノ捕捉照準ニ困難ヲ感シタリ尚本日ノ氣象諸元左ノ如シ

日出〇七二七 日没一八〇四 氣壓七六〇 耗風向北 雲量中雲高低風速三米 視程四料

三 彼我兵力及敵ノ團隊號編成裝備素質戰法

人 員 我カ兵力

主要兵器

彈 藥

將校一六 准士下士官五二 兵二九二名ニシテ別紙第二ノ如シ
九八式高射機關砲一八門(内十門眼鏡式八門照準環式)
時局觀測具六器 及九二式電話機一器ナリ
一〇式曳光自爆榴彈一六二九發 一〇式曳光徹甲彈六〇
二八發ナリ

2 敵ノ兵力

部隊

本隊ニシテ機動部隊

編成 空母三、戦艦ニ巡洋艦三、駆逐艦五、成ル機動部隊、艦

載機

機種 クラマン戦斗機、カーチス爆轟機(何レモ艦載機)

機数 未襲回数九回、延機数一ニ機(戦斗機数七十四機)

装備 一三七機関銃ニ〇機関砲、装備シニ〇一五〇壯爆弾、塔載シテ

ルモノ、如シ

戦法 攻毒法

イ、急降下角度ハ二〇〇、空襲ニ比シ一般ニ僅少ニシテ高低南

四十五度附近四〇一五〇度位ナリ

ロ、急降下後、離脱高度一般ニ高ク五〇〇米一八〇〇米ナリ

ハ、同一目標ニ対シテニ方向、三方向ヨリ未襲攻毒ス

ニ、急降下ノ場合ハ一機ツツ同航路ヲ進入スルコト少ク編隊

ノ濫降下スルコト多シ

ホ、太陽光線、雲、地形ヲ巧妙ニ利用ス

(四) 攻毒目標

ノ 第一ニ地上機滑走路

ハ 第二ニ機関砲陣地、地上施設

素質 雲柱ニ太陽光線等天候氣象地形ノ利用ハ一般ニ優

秀ニシテ編隊ノ編合離散急降下及射毒投彈等輕

視スルヲ許サズ然レ共其ノ戰意ハ一〇一〇ノ空襲ニ比

シ低下シアルモノト認ム

四戦斗經過ノ概要

二十一日

ノ 敵機動部隊ノ行動ニ鑑ミ二十日夜未撃言或ヲ嚴ニ責

施シツ、アリシ処軍高射砲隊長ヨリ左記命令ヲ受領シ

〇五一八警急姿勢ヲ乙ニ轉移ス

記

命令 軍高射砲隊命令 六月二十一日 〇五二六

大隊長注意

一昨夕、機動部隊其後、行動不明
二各隊警急姿勢カ乙ニ移行スヘシ

軍高射砲隊長 吉田 清

大隊長ハ各隊ヲシテ陣地、偽装及各人、偽装ヲ徹底
スル如ク注意セリ

偵察

ハハ一戦斗姿勢ヲ令セラレハ三戦斗姿勢ニ轉移
ヲ完了スハハ七小隊飛行場上空ニ廻旋回中トノ
情報、受領シ至嚴ナル警急姿勢ヲ續行中第一中隊並

敵機発見

視哨ハ南方高度二八〇〇米高低角四十五度附近、西
進中、敵機一機、発見ス然レ共其後敵狀ニ関シ
新報ナク警急姿勢カ乙ニ移行ヲ命セラレハ九〇三大隊
ハ移行ヲ完了ス

1501

二警急姿勢カ乙、態勢カニテ警戒中ハ九三〇宮古上空ニ
敵機未襲引續キ台北空襲中トノ情報アリ一〇三五内境

丙號戦備

戦備下令セラレ南西諸島全地ニ警戒警報發令セラレ

情報

二〇八警急姿勢カ甲ニ轉移ヲ命セラレ
二〇九與座岳地矣二四〇度一六〇料ヲ敵機大編隊
近接中、情報ニ依リ二一一〇戦斗姿勢カヲ命セラレ
左記命令ヲ下達ス

作命

機砲村作命第一〇五號

機關砲第百五大隊命令 一月二十一日 二二

一與座岳地矣二四〇度一六〇料敵大編隊近接中

高射部隊ハ戦斗姿勢カニ轉移セラル

二各隊ハ戦斗姿勢カニ轉移スヘシ

大隊長 村上末夫

逐次敵機近接、二一五一那霸上空ニ三九機侵入ス
二一五四軍高射砲隊長ヨリ左記注意アリタリ

1502

注意

敵機発見

警報解除
警報解除

各隊ハ落着イテ初弾必墜ヲ期セヨ
 敵機ハ射撃ヲ爲セバ不規行動ヲトルニ依リ注意スベシ
 那覇方向ノ襲ヲトラレテ東方及北方ノ警戒ヲ怠ルナ
 依テ四周ノ警戒ヲ嚴ニ實施中 東方ニ高度三五〇〇—四〇
 〇〇米高低角四十五度南進中ノ敵ニ機ヲ発見ス
 全將兵敵機ノ射程内未襲ヲ待テタルモ遂ニ敵機ハ北
 飛行場ニ来ラズニニ七空襲警報解除セラレ軍高
 射砲隊長ノ命ニ依リニニ七警戒姿勢乙ニ移行ス
 其ノ後宮古島 台湾島ニ敵機ノ未襲アリタルモ本島ニ
 異状ナク一七〇警戒姿勢解除セラレ休宿姿勢移行ノ命令
 ラ受領シテ命令ニ下達シ一七ニニ三休宿姿勢移行ヲ了ス
 但シ警戒姿勢乙ニ準ジ至嚴ナラシムル如ク注意ノ與フ

記

作 命

機砲作命第一〇七號

機砲隊第百五大隊命令

一月二十一日一七ニニ

一警戒姿勢解除セラレ高射部隊ハ休宿姿勢移行ス
 二各隊ハ休宿姿勢ニ移行スハシ

大隊長 村上 末夫

二十二日

警戒姿勢乙

戦斗姿勢

昨日ニ引續キ警戒姿勢乙ニ準ジ警戒ヲ續行シ夜
 間ノ未襲ニ備ヘタリ 二十一日 二四〇〇敵機動部隊ノ情
 報ヲ受領シ愈々南西諸島空襲必至ナルヲ予期ス
 〇五・五一警戒姿勢乙ニ轉移ヲ命ゼラレ敵ノ拂曉襲撃ニ
 遺憾ナキヲ期ス 東天仄カニ明初ノシロロ六・三五空
 襲警報發令 戦斗姿勢カニ轉移ヲ命ゼラレロ六・三六
 轉移ヲ了ス
 遂ニ敵機侵入ノ情報ヲ受領シ將兵眈々裂キテ

敵機侵入
射撃開始

其ノ未襲ヲ待ツ

俄然〇七〇〇敵機ハ那霸上空ニ未襲引續キ北飛行場上空ニ未襲ス〇七四六北飛行場侵入機ニ第ニ中隊先ツ必墜ノ第一彈ヲ送り此処ニ本日ノ激烈ナル戦斗ヲ開始ス
其ノ戦斗経過別紙要圖第一、如シ

1. 第一回戦斗

〇七四六東南東雲上ヨリ陣地上空ニ侵入セシ「クラマン」戦斗機七機ハ高度三〇〇〇米ヨリ約六〇〇米ニ急降下地上機ニ機間砲陣地ニ銃專ヲ加ヘ西方海上迄ニ北方脱去ス
第二中隊ハ其ノ四番機ニ集中彈ヲ指向シ三發ノ確實ナル命中彈ヲ與ヘルヤ敵機ハ高度迄ニ速度ヲ低下シツ、西方ニ脱去ス
同時ニ第三中隊ハ亦一番機ニ猛射ヲ浴セ敵機ノ胴

戦斗指導

2. 第二回戦斗

体ノ破損ヲ確認シタルモ專墜ニ至ラズ〇七四七西南方海上ニ脱去ス
大隊長ハ特ニ專墜ヲ期シ得ル敵機ニ対シテノミ体當リ式待射ノ強行ヲ要望ス

〇八〇三東方三〇〇〇米ノ高度ヨリ約六〇〇米ニ急降下シ侵入セル「クラマン」戦斗機三機ハ地上機迄ニ機間砲陣地ヲ銃專シ西南海上ニ脱去ス
第二中隊ハ三番機ニ対シ射彈ヲ集中命中彈四發ヲ確實ニ與ヘ第一中隊亦一番機及ニ番機ニ天々ニ祭及至四祭ノ命中彈ヲ確認スニ番機ハ後尾羽翼ニ相當ノ破損ヲ受ケタルモ遂ニ專墜ニ至ラズ低空ニテ胴体ヲ大キク動搖セシメ、脱去ス

3. 第三回戦斗

注意

ロハ五以降敵機ハ主トシテ西南海上等視界範圍ヲ
 旋回シロ九、ロ五北飛行場上空ヲ四機高度約四〇〇米
 ニテ西方ヨリ東方ニ飛行シ偵察ヲ實施ス
 ロ九、ロ六「グラマン」戦機ニ機北方向ヨリ侵入シ高度ニ
 ロロ米ヨリ五ロ米ニ急降下シ地上機並ニ第一及第
 二中隊陣地ヲ銃撃シ西方並ニ東南方ニ脱去ス
 両中隊共未幾襲撃機夫々一機ナルヲ以テ愈々沈着射撃諸
 元ヲ慎重ニ調整シ必墜ノ射撃ヲ集中ス
 第一中隊先ヅ命中彈三發ヲ浴ビセ胴体ニ大破ヲ與ヘ
 第二中隊亦命中彈ヲ集中ス敵機ハ命中彈ヲ受ケルヤ
 約五秒ニシテ機体著シク動揺スルト共ニ爆音ノ不調ヲ未
 タシ南方ニ低空シタレ共再ビ機首ヲ立テ直シ東南方ニ脱
 去セリ相當ノ損害ヲ與ヘタルモノト認ム
 第三中隊ニ對シテ航速修正並ニ射撃時期ニ關テ注意ヲ爲ス

4. 第四回戦

○九、七一。ニ五間敵機ハ敵機編隊ヲ以テ高度四〇〇ー五〇〇
 米ヲ保持シ本島陸海面上ヲ旋回シ爆音絶ヘズ。九四五軍
 高射砲隊長ヨリ左記注意ヲ受ク將兵ノ志氣愈々軒
 昂揮撃節用ニ努メルト共ニ敵機眼前垂墜ノ決意ヲ
 益々鞏固ニス

注意

記

大隊ノ現在迄ノ戦斗ニ於テ各中隊共満ヲ持シ初撃必
 墜ニ徹底シ乱射ヲナセバハ軍高射砲隊長ノ満
 足スル所ナリ今後益々目重シテ初撃必墜ニ徹底スベシ
 依テ軍高射砲隊長ノ注意ヲ各隊ニ傳達スルト共ニ
 左ノ注意ヲナス

記

各隊ハ軍高射砲隊長ノ注意ヲ確守スルト共ニ尚一層

攻毒目標

射毒諸元ヲ正確ニ調整シ其ノ射毒ノ時期及射法ニ
 関シテハ日頃ノ注意ヲ履行スベシ
 尚現在迄ノ各隊ノ射毒ハ概ネ良好ナルモ必墜ヲ期スベシ
 一〇六「グラマン」戰鬥機並ニ「カーチス」急降下爆毒機ヨリ
 ナルニ十三機ノ大編隊ハ東北北及西北方ノ三方面ヨリ波狀
 的ニ分進侵入シ夫々三〇〇米ノ高度ヨリ四〇〇米ニ急降
 下シ猛烈ナル銃爆毒ヲナシ西南・南及東南方ニ脱去ス
 其ノ攻毒目標ハ地上施設・滑走路地上機及機關砲陣
 地ニシテ其ノ銃爆毒ハ一〇六ヨリ一〇〇ニ及ブ此ノ間
 各中隊ハ熾烈ナル銃爆下沈着克ク大隊長指揮ニ
 從ヒ中小隊長ノ命令ニ依リ最モ良キ目標ニ對シ次々ト
 必中彈ヲ浴ビ七決死敢斗ス
 (1) 第一中隊ハ陣地上空ニ殺到セシニ番機ニ對シニ發ノ命
 中彈ヲ浴ビセルヤ敵機ハ左翼ニ大破ヲ受ケ西南海上ニ

毒墜

毒墜

脱去ス續キテ来ル四番機ニ對シ四發ノ命中彈ヲ集中
 ス敵機ハ主翼ノ基部ヨリ黒煙ヲ發シ都屋西南一〇〇
 米ノ海面ニ突入墜落ス
 (大隊監視哨戰果確認班並ニ都屋部落民確認)
 引キ續キ七番機ニ射彈ヲ集中スルヤ敵機ハ四發ノ命
 中彈ヲ受ケ直ニ速度ヲ落シ編隊ヲ離レ低空ニテ西南海
 上ニ脱去ス
 (1) 第一中隊ハ陣地上空ニ來襲セル第一編隊ノ左翼機ニ
 確實ナル命中彈ニ發第ニ編隊ニ番機ニ命中彈ニ發
 ヲ與ヘルヤニ機共編隊ヲ離レ西南方ニ脱去ス
 然シテ第一編隊ノ被彈機ハ其ノ動搖並ニ速度ノ減退狀
 況ヨリ判断シ大ナル破損ヲ與ヘタルモノト認ム
 (2) 第三中隊
 陣地上空ニ襲毒セル一番機ニ對シ全火カヲ指向シ命中

雲 墜

彈六発ヲ確認シタル瞬間敵機ハ陣地上空通過後百
 米ニシテ黒煙ヲ噴キ遂ニ楚邊西南一五〇米ノ海上ニ突入
 隊墜落ス(大隊本部監視哨戰果確認班ハ衛兵部隊將校確認)
 續イテ四番機ニ集中彈ヲ浴ビセルヤ敵機ハ四発ノ命中彈
 ヲ受テ楚邊部落上空ヨリ黒煙ヲ発シテ低空ニテ西
 南海上ニ脱去セルモ遂ニ楚邊海岸ヨリ三〇〇米ノ海上ニ
 墜落スルヲ確認ス(部隊監視哨戰果確認班衛兵部隊將校確認)
 敵機墜墜ニ自信ヲ持テタル中隊ハ中隊長指揮ノ下敵
 機ニ對シ適時適切ナル射彈ヲ集中セシガ後尾編隊ノ二十
 番機射撃地點ニ達スルヤ猛烈ナル集中火ヲ浴ビセ其ノ
 胴体ニ五発ノ命中彈ヲ與フ
 敵機ハ暫クノ後黒煙ヲ長ク引キ楚邊西方ニ三〇〇米ノ海
 上ニ突入ス(部隊監視哨戰果確認班衛兵部隊將校確認)
 此ノ間八番機十四番機十七番機ニ次々命中彈四発ノ至

雲 墜

ニ斧ヲ與ヘタルモ雲墜ニ至ラズ八番機十七番機ハ被彈スル
 ヤ編隊ヲ離レ速度ヲ落シ西方海面ニ低空ニテ脱去セルモ
 其損害大ナルモノト認め

注 意

特ニ八番機ハ其ノ尾翼ニ大破ヲ與ヘシヲ確認ス
 本戦斗ニ於テ四機雲墜セシ各隊ノ戦斗ハ良好ナルモ
 軍高射砲隊長ノ日頃ノ注意ノ如ク敵ヲシテ再度本島
 米襲ヲ断念セシメルタメ米襲機ノ殲滅ニ決死努力カスベシ

第五回戦斗

一〇三三西北方三〇〇米ノ高度ヨリグラマン戦斗機四機四〇
 米ニ急降下侵入シ地上機銃ニ機関砲陣地ヲ銃撃ス

雲 墜

第一中隊ハ二番機ニ射彈ヲ集中シ命中彈ニ發ラ與ヘルヤ
 被彈機ハ翼下端ヨリ黒煙ヲ発シ編隊ヲ離レ(他ノ三機ハ
 第三中隊陣地ヨリ南方海上ニ脱去ス)躊躇シテ東方ニ脱
 去ストス

第三中隊亦間髪ヲ入レズ該被彈機ハ火力ヲ集中シ命
 中彈六架ヲ確認スルヤ急速ニ航速ヲ減退再度黒煙
 ヲ發シ機首ヲ北方ニ轉ジ城山北方ヨリ旋回シテ南ニ西南
 方ニ向ヒ都屋上空ニテ亦々黒煙ヲ發ス此ノ頃ヨリ爆音著
 シテ不調ニシテ高度航速ハ急激ニ低下シ超低空ニテ西
 南海上ニ脱去セルモ其ノ墜確實ナルモノト認ム(爆音
 殆ド停止状態ニアリ滑空ヲ以テ脱去セントセシヲ以テ墜
 確實ナリ)

此ノ間第三中隊ハ陣地上空ニ侵入セシニ番機四番機ニ
 對シ夫々七架此ニ四架ノ命中彈ヲ與フ
 一番機ハ胴体ニ被彈スルヤ機体ノ破損片散乱スルヲ見
 第四番機亦尾翼ニ破損ヲ與ヘシヲ確認ス
 部隊ハ本戦中於テハ四機未襲シタルニ其ノ三機迄未
 墜破シ部隊將兵ノ關心愈々旺盛ニシテ意氣衝天ノ

注意

第六回戦斗

氣概ヲ呈ス

横行目標ニ對スル射毒ハ不十分ナリ各隊ハ尚一層射毒
 諸元ヲ精密ニシ必中機ノミ射毒スベシ

一。頃ヨリ天候漸次晴天ニ向ヒ雲高度高ク陽光ヲ見
 ルニニ四北方ヨリ「グラマン」戦斗機柱ニ「カース」急降下爆
 雲機十八機ニ編隊ニ分レ飛行場ニ侵入シ地上施設滑
 走路地上機及機関砲陣地ヲ銃爆轟ス
 敵機八四〇〇米ノ高度ヨリ雲ヲ巧ニ利用シ八〇〇米ニ急降下
 シ西方西南方、南方ニ分レ脱去セリ

第二中隊ハ陣地上空ニ殺到セルニ番機ニ命中彈三架ヲ
 與フルヤ右翼破損スルヲ確認ス續クテ五番機ニ射彈ヲ
 集中シ左方命中彈二發ヲ確認ス被彈機ハ中隊西側森
 林ニ墜ルヨリ急速に燃焼ス都屋上空ニ於テ六命ハ墜ル

ノ第七回戦

注意

超低空ニテ五分海上ニ脱去ス 妻破相當ナルモノト認ム
第三中隊亦陣地上空ニ來襲セシ五機ニテ命ヲ中隊
ヲ確認セシガ其ノ内五番機ノ損害ハ大ナルモノト認ム

一三三〇頃ヨリ天候漸次曇リ西北方ニハ可ナリノ兩雲低迷ス
一三四九軍高射砲隊長ヨリ全高射部隊ヲ對シ

ハ追射ノ禁止

ハ射撃時機ノ適切

ハ彈藥ノ節用

ニ付キ注意アリタルニ依リ各中隊ニ其ノ徹底ヲ命バ

一五〇〇南方上空漸次天候恢復シ陽光ヲ見ル

一五〇九太陽ヲ背ニシ南方上空四〇〇〇米ノ高度ヨリ突如

「アラマン」七機ニ〇米ニ低空ニ地上機柱ニ機關砲陣地ヲ

銃妻シツ北方ニ脱去ス

部隊ハ南方ニ陽光ヲ見ル直後ナルヲ以テ大隊長ノ注
意ニ基キ一齊ニ砲門ヲ南方ニ向ケ其ノ來襲ヲ行チタルヲ
以テ各中隊夫々必中隊ヲ敵機ニ集中ス

轟 墜

ハ第一中隊ハ七番機ニ射撃ヲ集中シ命中彈六発ヲ浴ビ

セルマ七翼基部ヨリ火焰ヲ発シ座喜味上空ニ於テ益々

黒煙ヲ増加シ將ニ墜落セシト見エタルモ火焰ニ包マレタル

補助タンクノミヲ浴シテ之ノ火焰ヲ爲座喜味ニ火災ヲ起ス

宇田方向ニ脱去セシガ遂ニ宇田西方ニ〇〇米ノ海中ニ墜

落ス(宇田部落民警防團員確認)

妻 墜

ハ第三中隊ニ番機ニ對シ命中彈三発ヲ與ヘ第三中隊亦

同機ニ對シ命中彈ヲ集中ス 被彈機ハ操縦席ヨリ瞬

時火ヲ發シ引續キ胴体ヨリ黒煙ヲ噴キ飛行場真中ニ

テ墜落スルヤ見エタルモ機首ヲ立直シ城山北方ニ墜落ス

(部隊全員確認)

注 意
8. 第八回戦斗

此、間第八回戦斗ハ一番機ヲ二六番機ニ對シ夫々命中彈
 五発ヲ四発ヲ與ヘ胴体ヲ尾翼ニ破損ヲ與ヘシヲ確認ス
 雲間ヨリ急降下スル敵機ニ對シ特ニ注意スベシ

一五四一ガートリス急降下爆轟機ハ機東北方四〇〇米ノ雲
 間ヨリ四〇米ニ急降下侵入シ滑走路地上機及機関砲
 陣地ヲ銃爆轟シ西方ヲ西南方ニ脱去ス

第八回戦斗ハ陣地上空ニ殺到セシ一番機ニ確實ナル命中
 彈ニ發射ヲ與ヘルヤ同機ハ瞬時火ヲ發シ高度ヲ低下シテ
 都屋方向海上ニ脱去ス

其ノ後隊ヲ確認セザルモ雲隊モシテ甚大ナル損害ヲ與ヘ
 タルモノト認ム

亦三番機ニ對シ命中彈ニ發射ヲ與ヘ同機ノ高度ヲ速
 度ノ低下ヨリ判断シ甚大ナルモノト思考セラル

9. 第九回戦斗

一七三六グラムン戦斗機ニ機五〇米内外ノ超低空ニテ東方ヨ
 リ北飛行場南側上空ヲ飛來シ西南方ニ脱去ス

ソノ撃墜機ノ諸元別紙ノ如シ

其後敵機ノ未襲ヲ一八三七警戒警報解除警急安
 勢ニ移行ヲ命セラレ一八四一移行ヲ完了ス

命ニ依リ一九三三再度戦斗姿勢ニ轉移ス依テ尤ノ注意
 ヲナス 敵機ハ那霸上空ニテ北飛行場ニ未襲セズ

又間來襲ノ敵機ハ必隊ノ自信アル場合ノ外其ノ射撃
 ヲ禁止ス

徒ラナル射撃ハ火炮砲ニ依リ逆ニ敵機ノ目標トナルベシ
 軍高射砲隊長ノ命ニ依リ二〇〇九記命令ヲ下達シ掃
 射機約十二時間戰斗回數九回ノ激烈ナル水機襲撃

戦ヲ終ル

尤記

機関砲隊百五大隊命令

一月三十一日

- 一、空襲警報解除を以て高射部隊ハ警急姿勢を解除せしむ
- 二、各隊ハ警急姿勢を以て移行スベシ

大隊長 村上末夫

主連絡施設状況

通信網状況

軍高射砲隊司令部——大隊本部間電話一回線ヲ構成シ、本部——各中隊間ハ電話皆無、タテ遠傳兵ヲ配置シテ連絡

ニ任セシメタリ

陣地保護

陣地五〇米以内ハ敵彈ニ依ル損害ヲ防止スルヲ溝設トシ、其他ハ民家村落等ニ避テ人馬車輛等ニ依ル断線防

戦中通信

戦中通信故障ナキモ連絡ノ確保及通信線路偵察補強ノ目的ヲ以テ一六三〇通信掛志賀軍曹以下三名出發、一六三七陣地南々東約一五〇米ノ地矣ニ於テ彈片ニ依ル断線シテテ發見直ニ之ヲ補修懸替ヲ行ヒ軍高射砲司令部ニ到リ連絡後歸隊ス

大戦開戦後ニ於テ我軍概況

概況

一八三軍射砲隊長ヨリ球高旅司令部第六七號ヲ受領シ
並記命令ヨリ下達シテルコト以下各隊一斉ニ陣地ノ遠近偽
装並補強ヲ強行スルト共ニ火砲彈藥ノ整備ヲ實施ス

記

機關砲第百五大隊命令

百五二八三

一高射部隊ハ一部陣地ヲ変換シ偽装遠近ヲ徹底シ明
拏曉以降ノ戦斗ニ遺憾ナカラシムル

ニ大隊ハ本夜中ニ各陣地ノ遠近偽装ヲ徹底シ明拏曉以降
ノ戦斗ヲ準備セントス

三各隊ハ本夜中ニ更ニ陣地ノ偽装遠近ヲ實施シ明拏曉以
降ノ戦斗遂行ニ遺憾ナカラシムベシ

大隊長 村上末夫

左記注意與至嚴ニ警戒式ヲ續行シ本夜ノ月明並ニ明
拏曉時ノ空襲ニ滿遺憾ナキヲ期ス

記

警戒態勢ニ移行セラレタルモ本日ノ敵機ノ情況ヨリ察
シ月明ヲ利シ何^時未襲スルヤモ知レズ各隊ハ最モ至嚴
ナル警戒ヲ續行スルト共ニ特ニ明拏曉ノ空襲ニ對シテハ萬
全ヲ期スベシ

本夜戦斗ニ於テ御嘉賞ノ御言葉注ニ軍司令官ノ賞詞ヲ
賜レリ

二十三日戦況上奏ニ際シテ五日ニテ敵機台湾及沖繩方
面來襲ニ當リ現地各部隊が健斗大ニ努力メ大ナル戦果
ヲ收メタル事ニ関シ畏ラモ御嘉賞ノ御言葉ヲ賜レリ

賞詞

軍高射砲各隊

右者軍高射砲隊長陸軍中佐吉田清統一指揮ノ下
二月二十一日及二十二日未ニ各機動部隊ノ南西諸島空

襲ニ當リ敵機延七百數十機ヲ邀撃シ勇戰健斗
 擊墜破總數實二百十三機ノ戰果ヲ收メタリ惟ニ今
 次戰果ノ赫々タルハ昨年ノ十月十日以來ノ戰訓ヲ活用
 シ克ク長期ニ亘リ不撓不屈一意作戰準備ニ專念シ
 戰斗ニ方リテハ隊長ノ的確ナル指揮ノ下部下將兵ノ
 沈毅勇戰克ク隊長ノ所謂初彈必中ノ戰斗指標ヲ
 具現セシニ因ルモノニシテ去ヌルニ二三日參謀總長ノ戰況
 上奏ニ際シ畏クモ軍ニ對シ御嘉賞ノ御言葉ヲ賜フ因
 フナセリ

右ハ戰局日ニ急迫ヲ告ケ敵機ノ來襲更ニ執拗苛烈ヲ
 極ムヘキノ秋彌々軍官民ノ志氣ヲ昂揚シ益々其ノ必勝
 ノ信念ヲ鞏固トシメタルモノニシテ顯功賞讚ニ價ス
 依ツテ茲ニ賞詞ヲ與フ

昭和二十年一月二十七日

誓文

誓文

第三十二軍司令官陸軍中將^{正五位}牛島滿
 二十七日軍司令官ヨリ右ノ賞詞ヲ受ケ將兵一同愈々志
 氣旺盛任務ノ完遂ニ努メ御聖旨ニ副ヒ奉リントラ期ス

本二十七日軍司令官閣下ヨリ別記ノ賞詞ヲ拝受ス誠ニ感
 激ニ堪ハス

將兵一同愈々來襲未空軍ニ對シ一彈必遂以テ負荷ノ
 重任ヲ完遂セシメトラ期ス

之ガ為特ニ尤記諸項ヲ嚴守實行具現ス

ノ既往ノ戰訓射擊結果ノ利用注ニ注意ノ履行具現
 ス第一群射ヲ以テ眼前轟墜

ノ向ヒ撃テニ做シ一群射各門一祭(四五祭以内)

兵器操縦ノ整備美檢現正(朝)ノ將校必ガ立會以テ
 自他ノ與同ノ整備美檢現正(朝)ノ將校必ガ立會以テ

3. 戰鬥後ノ審査勸行

中隊長ノ號令敵機ノ行動及射彈ノ景況ヲ記錄シ
號令ノ適否兵ノ操作ノ正否ヲ戰鬥後審査シ
同一機ヲ踏マサル共ニ確固ナル戰訓資料獲得

4. 大尉ノ基本分隊教育ニ移シ徹底的ニ燒キ直ス

之ヲ教官ハ下士官委六不可將杖自ヲ指揮シ缺
點ヲ其ノ都度指摘矯正シ頻回復行

昭和二十年一月二十日

軍高射砲隊

敵ノ形勢

三番一丸ニ小線飛行場ニ侵入セシ敵機ヲ最後トシ本
島ヲ襲撃ス

台灣軍ノ情報ニ依リハ敵機動部隊ハ伸縮南方

ニ。料附近ニアルモノ如ク本日ニ引續キ南西諸島攻
襲ノ算大ナルモノアルヲ豫察セシム

此戰鬥ノ教訓其ノ他參考事項

射撃ニ對テ

① 今次空襲來、如ク機関砲障地上空ニ殺到スル敵機ニ對
シテハ其ノ効果益ニ彈藥節用上ヨリ見テ固定照準ヲ待
射ハ射毒ヲ最良ノ射法ト認ム

但シ確實ニ障地ニ對シ射線ニ沿ヒ降下スル目標ニ非ラ

ザレバ極々僅カ照準線ヲ外レル目標ニテモ固定照準

ニ依リ射毒ハ効果少シ

② 敵機、進入方向離脱後、飛行方向算ニ依リ異ルモ

急降下後機首ヲ直シ水平飛行ニ移レル瞬間

失速時ヲ狙ヒ待射的ニ射彈ヲ送ルヲ有効トス

③ 敵機南空附近ノ目標ニシテ急降下スル目標ノ降下

角ノ判定ハ困難

射撃ノ状況、目標ノ方位、許サズ水平飛

行時ノ射撃ハ射撃ノ射撃スルヲ有効トス

- (4) 超低空目標ニ対スル射撃ハ一般ニ効力大ナリ
依テ狀況許サバ八度以下ニテモ射撃シ得ル如ク考
慮スルヲ可トス
- (5) 今次空襲ニ於テ急降下後ノ離脱高度一般ニ高ク
五百—一千米多シ
依テ昇降角ヲ殊リ千米以内ニ引キツケ射撃セントスル
ト直距離一五〇米以上等ノ位置ニ於テ機首ヲ直シ
脱去水平飛行ニ移ルモノ多ク一時射撃ニ困難ヲ感セ
シコトアリ
故ニ克ク敵機ノ狙ヒアル目標物ト侵入方向高度等ヲ
考慮シ速カニ敵機ノ行動ヲ豫察シテ射撃ヲ實
施スルヲ要ス
- (6) 測遠機手ノ測距ハ急襲目標ニ対シテ一般ニ近測
距セル傾向アリ

訓練

- 且目標ノ發見困難ナリシトキハ適時適確ナル測距
困難ナリシ事多シ
- 指揮官ノ直距離ノ目測ハ最高度ニ演練ノ要アリ
射撃間ニ於ケル小中隊長間ノ連絡ハ更ニ緊
密ナル如ク日頃ヨリ訓練スルヲ要ス
- 爆音其ノ他ニ於ケル眼前ノ景象ニ眩惑サレザル如ク騒
音ヲ作爲セル狀況下ニ於ケル訓練ノ要アリ
- (8) 基礎教育ノ徹底ハ敵機ノ須臾ニ弁ニ登リ其ノ成
果ヲ發揮ス
- (9) 敵機ノ銃撃彈機関砲陣地掩体内ニ落下スル如キ
激烈ナル戦斗ニ於テハ中小隊長ノ大膽適切ナル指揮ヲ
克ク砲手其他ノ志氣ヲ鼓舞シ必墜ノ射撃ヲ送り
得ルモノナリ

要見

部隊電告機手ノ情報ノ迅速正確ノ指揮ニ至ル

要圖第一

考

擊墜機
深遠火機
十八号機下ヲ示ス

巨 小 機	目録 機種 時刻	機 種	機 数	高 度	航
					速
1	0246	至	7	400 600	90 100
2	0250	至	1	600 800	,
3	0206	至	2	500 500	,

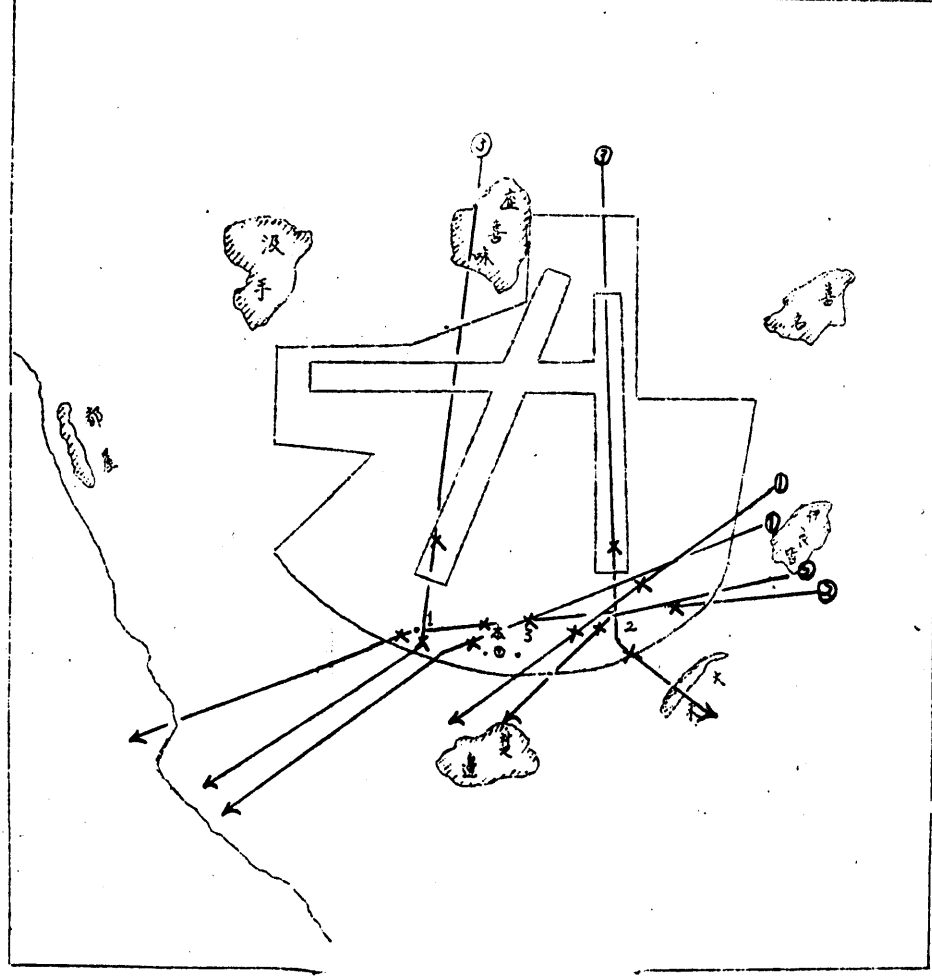
要圖第一

要圖第一

支障ヲ来セリ少クトモ一口器以上ノ通信器材ヲ
必要トス

機砲隊五百大開經過圖

考		備		擊破	擊墜	航速	高度	機數	機種	目標	距離	時間
X印八射擊位置指示		擊擊機										
↓八急降下指示												

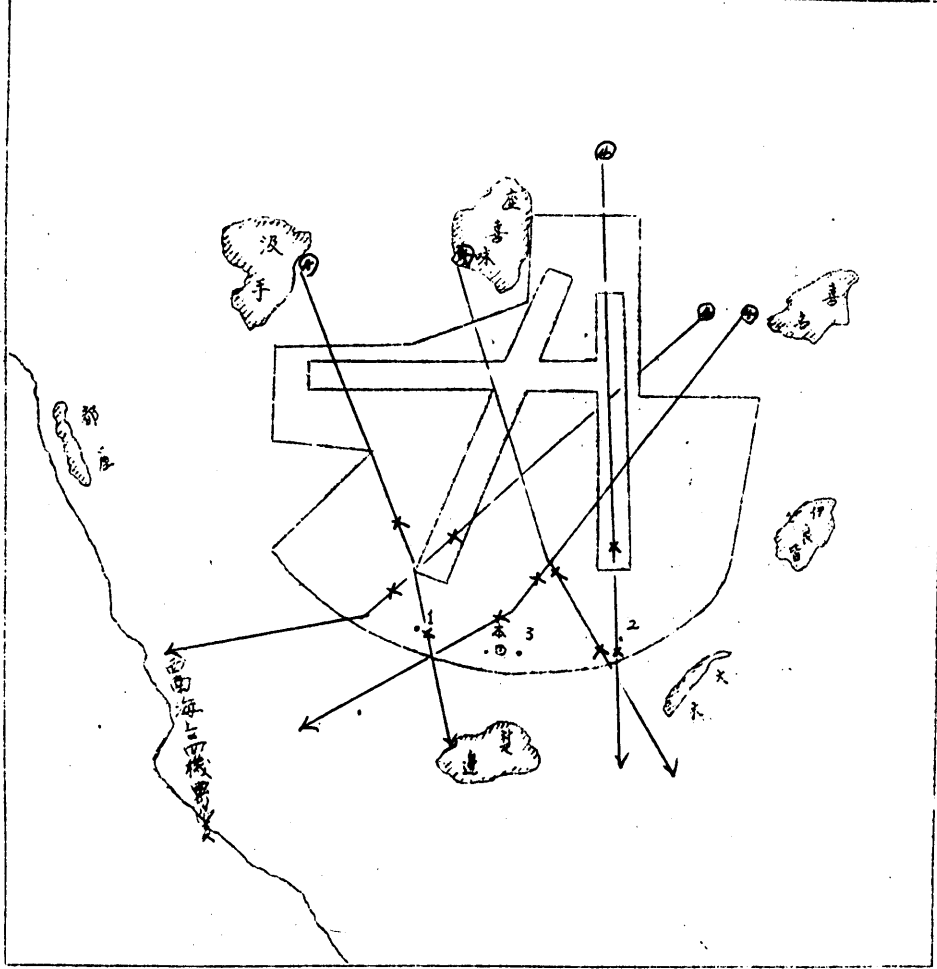


要圖第一

1597

五月廿一日 日 月 日 時 分 機關砲隊五百號開戰要圖

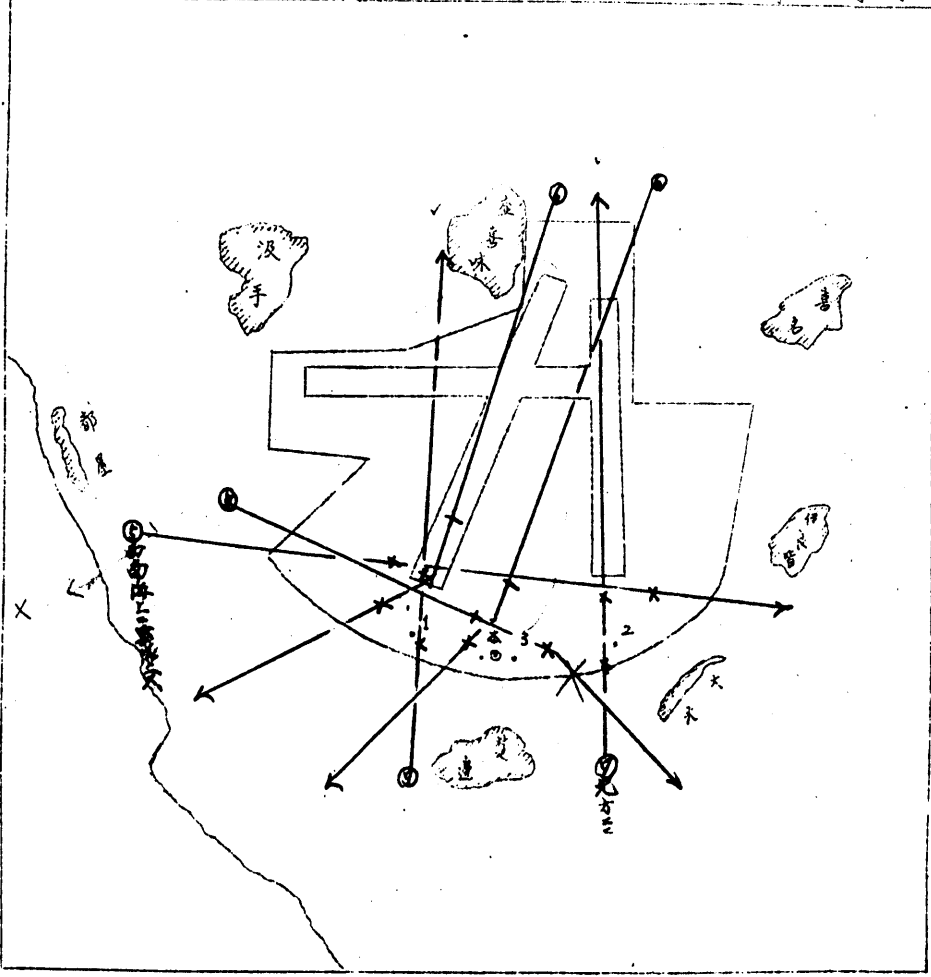
考		機				
印八射擊位當示 擊位 擊位 五機 四機						
區	目標	機種	機數	高度	航速	擊破
未詳	見所刻	中	20	1000	150	4
分	16					5



要圖第二

分 33 時 10 日 22 月 1 日
 分 10 時 15 日 22 月 1 日
 圖要過經開城隊五百第砲副機

考		備				
		×印八射擊位置示之				
		擊 擊 擊 擊 擊				
		破 壁 壁 壁 壁				
		機 機 機 機 機				
		種 數 度 速 擊				
		日 機 機 高 航 擊 擊				
		標 種 數 度 速 擊 擊				
		分 種 數 度 速 擊 擊				
		回 種 數 度 速 擊 擊				
5	100	4	400	1	2	
2	124	12	400		3	
9	1510	9	400	2	2	

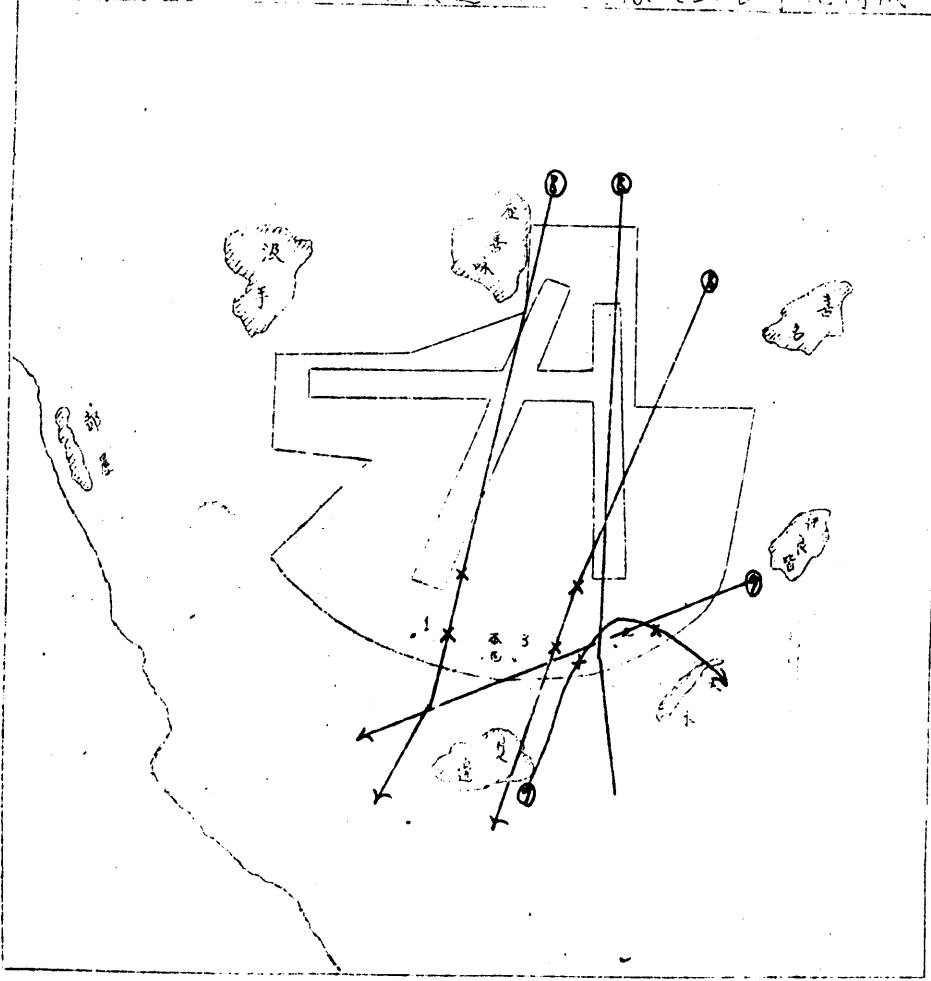


要圖第三

合計 41 時 15 分 22 秒
 分 26 時 17 分 22 秒

機開年百五火隊 圖要過

考		備				
		擊破機		×印ハ射擊位置ニ示ス		
		擊破機		機機		
區分	目標名見附刻	機種	機數	高度	航速	擊破
1	1541	2	5	400	85	2
2	1526	2	2	100	100	

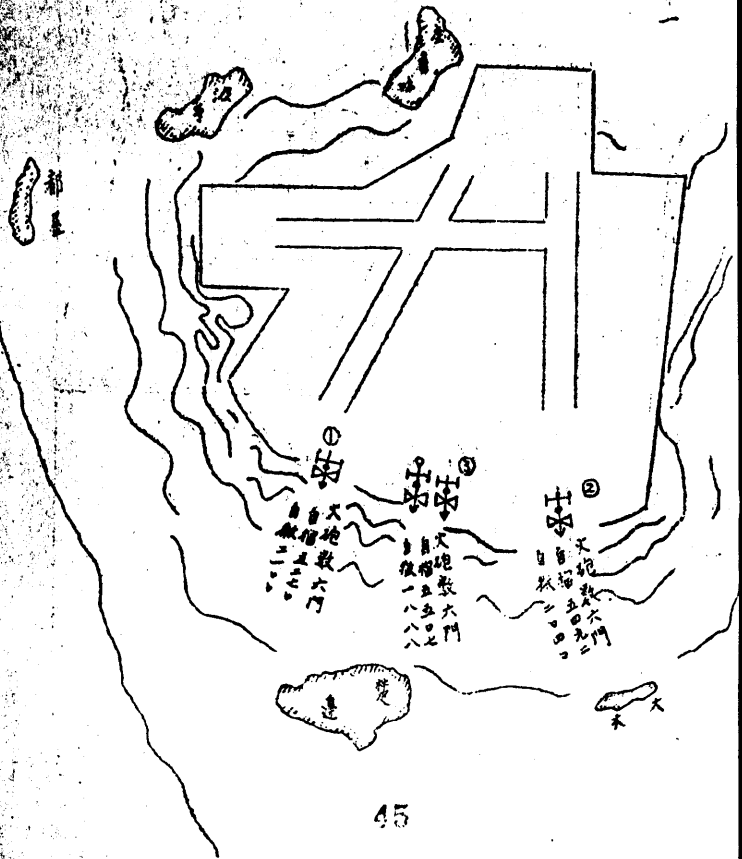


要圖第四

1337

圖一 第一日於此砲隊五百大從勢圍

附圖一



警 察 機 諸 元 一 覽 表

回 數	時 刻	第一中隊			第二中隊			第三中隊		
		機 種	高 度	航 速	機 種	高 度	航 速	機 種	高 度	航 速
4	10.16 10.20	中ノスノオン	4000	120						
5	10.33	クニヤン	4000	120						
7	10.10	クニヤン	4000	120						

備 考

ノ航速ハ一般元ノ
ノ至一〇ノルニ降下
速度ヲ之諸元ニ
装ス

附表第一

機 關 砲 第 百 五 大 隊 兵 器 損 耗 表

機 關 砲 分 隊	消 費		損 失	
	彈 藥	機 甲 彈	彈 藥	機 甲 彈
第一中隊	五五七	一	二四〇	異状ナシ
第二中隊	五九〇	一	二四〇	異状ナシ
第三中隊	五九〇	一	二四〇	異状ナシ
合計	一六三七	三	七二〇	異状ナシ

九八式高射機関砲
九八式高射機関砲
九八式高射機関砲
九八式高射機関砲
九八式高射機関砲

附表第三

船 和 平 年 一 月 至 日 機 關 砲 第 百 五 大 隊 死 傷 表

機 關 砲 分 隊	戰 斗 参 加 人 員		死		傷		生 死 不 明	
	將 校	下 等 兵	將 校	兵	將 校	兵	將 校	兵
第一中隊	三	一三						
第二中隊	四	一三						
第三中隊	六	一三						
合計	一三	三九						

附表第二

附表第五

機開砲第百五十六隊戰果一覽表

昭和20.1.22

機種	第一中隊				第二中隊				第三中隊				
	機數	距離	重量	發數	機數	距離	重量	發數	機數	距離	重量	發數	
1 08.44 F6F	7	90 100 300 400		*	7	90 100 300 400			F6F	90 100 300 400		1	
2 08.03 F6F	3	"		/	3	"		/	F6F	"			
3 09.06 F6F	2	"		/	2	"		/	F6F	"			
4 10.16 F6F SB2C	23	90-100 95-95		2	90-100 95-95		1	F6F SB2C	90-100 95-95		3	4	
5 10.21 F6F	4	90 100			4	90 100			F6F	90 100		2	
6 11.28 F6F SB2C	18	90-100 95-95		2	90-100 95-95			F6F SB2C	90-100 95-95		1		
7 11.10 F6F	7	90 100	1		7	90 100	1		F6F	90 100		2	
8 11.41 SB2C	8	95-95			8	95-95	2		SB2C	95-95			
9 12.16 F6F	2	90 100	3	6	90 100	100	1	6	F6F	90 100	200	3	8

